

めぐみイエス・キリスト教会

2024年5月5日(日)第一主日礼拝

午前10時より

週報「通算第705号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌251「主イエスの御前に」 p. 388

【交読文】 No.42 詩篇第130篇 p. 912

【賛美Ⅱ】 新聖歌428「キリストには代えられません」p. 690

【使徒信条】 【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「今も愛します主イエスを」

【聖書朗読】 ルカの福音書5章1節～7節

【礼拝説教】 《大漁から学ぶこと》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカの福音書5章1節～7節)

5:1 さて、群衆が神のことばを聞こうとしてイエスに押し迫って来たとき、イエスはゲネサレ湖の岸辺に立って、

5:2 岸辺に小舟が二艘あるのをご覧になった。漁師たちは舟から降りて網を洗っていた。

5:3 イエスはそのうちの一つ、シモンの舟に乗り、陸から少し漕ぎ出すようにお頼みになった。そして腰を下ろし、舟から群衆を教え始められた。

5:4 話が終わるとシモンに言われた。「深みに漕ぎ出し、網を下ろして魚を捕りなさい。」

5:5 すると、シモンが答えた。「先生。私たちは夜通し働きましたが、何一つ捕れませんでした。でも、おことばですので、網を下ろしてみ

ましよう。」

5:6 そして、そのとおりにすると、おびただしい数の魚が入り、網が破れそうになった。

5:7 そこで別の舟にいた仲間の者たちに、助けに来てくれるよう合図した。彼らがやって来て、魚を二艘の舟いっばいに引き上げたところ、両方とも沈みそうになった。

●ポイント1.「共観福音書における平行記事」から

※マルコの福音書1章35節～39節「捜す弟子たち」(新約p.66下段)

1:35 さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

1:36 すると、シモンとその仲間たちがイエスの後を追って来て、

1:37 彼を見つけ、「皆があなたを捜しています」と言った。

1:38 イエスは彼らに言われた。「さあ、近くにある別の町や村へ行こう。私はそこでも福音を伝えよう。その為に私は出て来たのだから。」

1:39 こうしてイエスは、ガリラヤ全域にわたって、彼らの会堂で宣べ伝え、悪霊を追い出しておられた。

●ポイント2. 主の復活後、ガリラヤ湖においての出来事から

※ヨハネの福音書21章3節～8節「久しぶりの漁」(新約p.229上段)

●ポイント3. 「山上の垂訓」にて教えられたこととは？

※マタイの福音書6章31節～33節「神の国と神の義」(新約p.11上段)

6:31 「ですから、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです。

6:32 これらのものはすべて、異邦人が切に求めているものです。あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。

6:33 まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」

◎先週の礼拝メッセージ【日が沈むと】

《シモン・ペテロの姑は、癒やされると、すぐに起き上がって、主イエス一行をもてなしました。彼らは楽しい夕食の一時を取りました。ユダヤでは、日が沈み、午後6時から新しい一日が始まります。何と大勢の人々が、シモン・ペテロの家に押しかけて来たのです。

シモン・ペテロの姑が、主イエスによって、奇跡的に癒やされたことが、町中に広まり、それで人々は、様々な病で弱っている者たちを御もとに連れて来たというわけです。主イエスは、一人一人に手を置いていやされました。ここからも、主は愛の人であることが分かります。

ある時、ライ病を患った人が主の御許に来て、願い出ました。「主よ、お心一つで私をきよくすることがおできになります」「わたしの心だ。きよくなれ」ライ病人は、癒やされました。

ここから、主の御心は、癒されることであることが分かります。アダムとエバが罪を犯す前には、「命の木」がありました。しかも、その実を食べると、どんな病や怪我も癒されたと私は信じています。なぜ、神様は「命の木」を置かれたのでしょうか。それは、罪を犯さなかったとしても、病や怪我などが、人類の中に存在することを暗示していたからです。残念ながら、最初の人アダムとエバは、エデンの園から追い出されてしまいます。しかし、父なる神様は、それから四千年後の歳月を経て、再び「命の木」を人類にお与えになられたのです。それが、主イエス・キリストなのです。

主は、病を癒されたと同時に、悪霊を追い出されました。これは、解放されることであり、自由にされることです。パウロは、かつての私たちは、自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って、歩んでいたことを指摘しています。私たちは、恵みによって救われ、罪から自由にされたのです。そして、聖霊様が私たちの中に住んで下さっておられるのです。》

お知らせ

※次回は5月12日(日)は午前10時から、通常通りに行ないます。